

未来の子どもに誇れる学校給食を



市は「理科大跡地に久喜市の小中学校34校すべての給食1万2000食を調理する給食センターを建設し、2020年に稼働させる。費用対効果を考え決定した」と明らかにしました。これが実行されれば、現在栗橋地区で実施している

「自校方式」による学校給食がなくなります。

栗橋ではこれまで、子どもたちにとって食育の面でも優れ、温かくて美味しいと、喜ばれている学校給食を続けようと、保護者の運動もあり継続されて来ました。

自校方式による給食施設は教育効果が大きいと考え、近隣の春日部市、草加市など実施している自治体は少なくありません。センター方式から切り替えている自治体さえあります。未来の子ども達に誇れる学校給食を残すべきです。



4月に撤退した東京理科大学

理科大跡地に子育て・教育センターの計画 給食センター・企業進出で問題が

これまで懸案とされていた東京理科大跡地利用案が出されました。若い世代から住みやすい久喜市が選ばれ、子育て環境を充実させるために「子育て・教育センター」を作る計画です。①久喜西児童館・子育てセンターとして相談・支援体制を充実させる②市民の生涯学習施設・高齢者や市民大学拠点を作る③市民ラウンジ・ホールを開放する。

④子ども図書館を作る。さらに、⑤敷地内の5万3千平方メートルに、市内34校ある小中学校の給食をまかなう、給食センターが計画されています。

企業進出で交通公害 環境悪化の心配が

子育て・教育センター、大型給食センターの施設利用車、さらに跡地6割部分に進出する物流企業の大規模車両通行など、大混雑が予想され、交通公害や環境破壊が心配されます。

住民への十分な説明と 予算の裏付け示すべき

9月議会には、県道12号線に抜ける新設道路の予算8千300万円が計上されました。地区開発計画も出ておらず、議会に全体の総予算の説明も提案されていない中でこのことです。市民や特に影響を受ける地域住民へは十分な説明が必要です。さらに、市民のつどえる場や、子ども達でにぎわう施設にするためには、バスや他の地域から乗り入れ可能なデマンドバスなど交通の利便性を考えるべきです。

住民要求実現で住みよい久喜市を 日本共産党久喜市議団

済生会栗橋病院現地存続を



済生会栗橋病院あり方検討委員会が立ち上がり、久喜市・加須市も加わり、来年の3月末を目途に施設整備などの構想案がまとめられます。市は、済生会栗橋病院に救急救命医の確保を支援する目的から、国の特別交付金を活用し、約4800万円の補正予算を計上。「建替えの土地確保の支援も必要では」との質問に「施設整備に必要な条件等が示されるまでは支援の検討はできない」との答弁です。旧栗橋町が誘致した病院であり、地域医療の要となる病院です。存続を求めます。

石田 としほ

夜間救急外来後の帰宅対策は



夜間に体調が悪くなり、救急車で新久喜総合病院へ行き、手当を受けた1人暮らしの方が「帰宅の時にタクシーは営業しておらず、病院も出されてしまい困り果てた」と言う声を聞き、改善の要求をしました。「市内の7施設では、控え室を設けている所もあり、近隣市町のタクシー、福祉介護タクシーが使える」と、答弁がありました。

実際には病院から出されてしまった事例があることから、病院への対応の徹底と市民への説明を求めました。

渡辺 まさよ

就学援助金支給は入学前に



「制服が買えずに中学入学式を欠席」と報道がされました。生活困窮者の方にとって、入学前に制服

代や、学用品、カバンなど6〜7万円の費用を工面するのは大変なことです。実態に即した就学援助にするため希望する人には入学前に支給すべきです。市は「認定に当たっては申請者の所得の認定が必要であり、難しい」との答弁です。福岡市や佐賀市は実施、長崎市、熊本市も実施が決まっています。所得認定問題は、久喜市もやる気になればできます。今後要望していきます。へいま 益美

移動図書館事業の再開を



合併前には、旧久喜市、旧鷺宮町で移動図書館が走り、待ち望むこともや、高齢者など多くの利用者に図書を提供していました。各図書館から離れた地域では、「情報過疎」になっています。どの地域に住む市民だれもが平等に図書に親しみ、情報を得る権利があるはずで、「お金の問題ではない」と実現を求めたが、市の答えは「今は新聞、テレビ、インターネットから情報が得られる」と冷たいものでした。(中古の移動図書館車であれば約200万円で購入可能)

杉野 おさむ